

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●ホープフルSは牝馬レガレイラが優勝

2023年12月28日(木)に行われたホープフルS(G I)ではレガレイラ(牝2歳/美浦・木村哲也厩舎)が優勝、G I初制覇を果たしました。グレード制が導入された1984年以降、牝馬混合の2歳G Iを牝馬が制するのは初めてのこととなります。

●庄野靖志調教師がJRA通算300勝を達成

2023年12月28日(木)の5回阪神9日・第3レースではジンセイが1着となり、同馬を管理する庄野靖志調教師(栗東)は、現役69人目となるJRA通算300勝(延べ3600頭目)を達成しました。

●柴山雄一騎手、田中勝春騎手、平沢健治騎手が引退

2023年12月31日(日)をもって柴山雄一騎手(美浦・フリー/JRA通算1万636戦602勝)、田中勝春騎手(美浦・フリー/JRA通算2万657戦1812勝)、平沢健治騎手(栗東・松下武士厩舎/JRA通算1647戦121勝)が引退しました。柴山騎手は美浦・古賀慎明厩舎、平沢騎手は栗東・松下武士厩舎で調教助手となる予定。2024年度新規調教師免許試験に合格している田中騎手には1月1日(祝・月)付で調教師免許が交付されています。

●シュネルマイスター、ソングラインらの競走馬登録抹消

2021年NHKマイルカップ(G I)などの勝ち馬シュネルマイスター(牡5歳/美浦・手塚貴久厩舎/JRA通算15戦5勝・海外2戦0勝)、2022年・2023年安田記念(G I)などの勝ち馬ソングライン(牝5歳/美浦・林徹厩舎/JRA通算14戦6勝・海外3戦1勝)、2019年兵庫ジュニアグランプリ(園田・JpnII)などの勝ち馬ティエムサウスダン(牡6歳/美浦・蛭名正義厩舎/JRA通算15戦5勝・地方13戦4勝)は、12月1日(金)までに競走馬登録を抹消されました。シュネルマイスターは北海道安平町の社台スタリオンステーションで種牡馬となり、ソングラインは北海道安平町のノーザンファームで繁殖馬となる予定。ティエムサウスダンも地方・佐賀競馬に移籍しています(年齢は抹消時)。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ウシュバテソーロが東京大賞典(大井)で人気に応じて連覇達成

東京大賞典(G I、12月29日、大井、2000m)は、後ろから2頭目の8番手から外を回って追い上げたウシュバテソーロ(川田将雅騎手、牡・出走時6歳、父オルフェーヴル)が、ゴール前で逃げ粘るウィルソントソーロを差し切り、単勝1.7倍の支持に応じてこのレース連覇を達成。ドゥラエレーデが3着、ノットウルノが4着、2番人気のキングズソードが5着、グロリアムンディが6着、テンカハルが7着と、7頭出走したJRA所属馬が上位を占め、3番人気に推された無敗の3歳馬ミックファイア(大井)は、勝ち馬とは2秒4差、7着馬からも7馬身遅れの8着に沈んでいます。

●東京大賞典の1レース、1日の売上が地方競馬新記録に

東京大賞典の売上は、前年比132.1%の82億9054万6100円で、地方競馬の1レースの売上記録となりました。また、当日の12月29日の売上は、前年比120.9%の124億5288万4560円となり、こちらも地方競馬の1日の売上の記録を更新。うちJRAネット投票は53億8474万700円と、全体の43.2%を占めています。

●2023年地方競馬リーディングは田中守調教師、吉村智洋騎手

2023年の地方競馬リーディングは、トレーナーが206勝で田中守調教師(高知)、ジョッキーは335勝の吉村智洋騎手(兵庫)でした。また、地方競馬リーディングサイアーは総合がシニスターミニスター、2歳はモーニンとなっています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1アメリカンオクス〜アニセツトがG1・2勝目

現地2023年12月26日にアメリカ・カリフォルニア州のサンタアニタパーク競馬場で行われたG1アメリカンオクス(3歳牝、芝2000m)はU.リスボリ騎手を背に5頭立ての3、4番手でレースを進めたアニセツト(牝3歳、父オータード、L.パウエル厩舎)が直線で抜け出して1馬身3/4差で優勝しました。アニセツトはイギリスからの移籍馬。23年8月のG1デルマーオクス(芝1800m)でG1初制覇を果たしましたが、続く10月のG2ロデオドライブSと11月のG3オクタムミスSはともに2着でした。

●G1マリブS〜スピードボートビーチがG1初制覇

上記したアメリカンオクスの3レース後に同じサンタアニタパーク競馬場で行われたG1マリブS(3歳、ダート1400m)はF.プラ騎手が手綱をとったスピードボートビーチ(牡3歳、父バイエルン)が先行争いを演じた同じB.バファート厩舎の所属馬ヘジャージを直線で突き放して1馬身半差で優勝しました。スピードボートビーチは2022年12月のG3セシルB.デミルS(芝1600m)で重賞初制覇。しかしその後長期休養に入り、復帰戦となった23年9月のG2サンタアニタスプリントチャンピオンシップS2着、同11月のG1BCスプリント4着を経てここに臨んでいました。